

## 第6章 教育・発達における実践研究

### 実践研究

- ・ 教育実践についての研究.....実践を行う主体：教育する立場と学ぶ立場
- ・ 教育実践を通しての研究.....実践を行う主体：研究者自身

### 本書の定義<sup>1</sup>

「研究者が対象について働きかける関係を持ちながら、対象者に対する援助と研究（実践）を同時に行っていく研究」

### 教育・発達の実践研究では...

「人々が生活・教育の行為としての実践を行う場での現象と過程を分析解明し、『子供が日々行っている実践』に研究者が関わりながら研究する」

### 実践の場としての「生活空間」

- ・ 生態学的な場...一回限り、個別独自の  
出来事の布置を構造の中に位置づける必要  
...人が心理的に構成する場の全体的構造やそこに働く力動関係を明らかにする

### 心理的生活空間

特定の間・時間において人の行動を決定している知覚、動機、環境について、その人にとって顕著な特徴という心理生物学的条件全体

「生活空間」...人と環境が相互関連して作り出すひとつの構造を持つ場

相乗的相互作用による複線方向への発展を射程に入れた、布置を捉えるシステムの見方

**環境** マイクロシステム、 メゾシステム、 エクソシステム、 マクロシステム

何を対象とし、どの生活空間領域を研究範囲として、どの時間単位で捉えるのか？

実践研究の視点...実践の主体にとって意味ある集団・時間・空間を単位として研究対象を切り出し分析考察する（分節化）

### 実践の場における発達研究の枠組み

♪ どのような研究課題を設定し、どのような視点で発達過程を記述するのか

<sup>1</sup> 学会誌『教育心理学研究』では、「授業研究、教育方法、学習・発達相談、心理臨床等の現実場面における実践を直接の対象とした教育心理学的研究であり、学校教育のみではなく、幼児教育、高等教育、社会教育等も含まれる。実践場面での資料収集、実践の改善を直接目指すもの、教育心理学的な見地からの分析と考察にもとづく具体的な提言がなされていること」と定義されている。「現実場面での実践を直接の対象とする」とうことに重点が置かれている。

視点によって研究のデザインが変わってくる

☞ 研究デザイン

次元（単一 / 複数） × モデル（因果モデル / 触媒的モデル）

実践研究での分析枠組み

**条件 - 生成（発達）分析モデル...システムの（複数次元）触媒的關係を見ていく視点**

発達と環境の關係を捉える研究枠組み

...個人と環境との相互關係を捉える枠組みが必要

「個人 - 社会・生態的環境枠組み」

☉データの様式ではなく、現象をどれだけ具体的に記述でき、妥当なものとして裏付けられるかという発達を捕らえる枠組みが重要

**実践への関わり方**

☞ 誰（何）にどのようにどの程度の期間関わるのか

型・名称	研究者と実践の場の關係	実践の位置づけ
観察調査 フィールドワーク（非関与観察）	一時的ストレンジャー 透明人間	実践についての研究
参与観察 フィールドワーク	継続的ストレンジャー 異文化者	実践についての研究
アクションリサーチ （コンサルテーション）	実践作りの間接的支援者 コンサルタント	実践を通しての研究
アクションリサーチ （カウンセリング、介入訓練）	特定の問題場面での実践者 カウンセラー、訓練指導者	実践を通しての研究
アクションリサーチ （実践者による研究）	日常的・継続的な全面的実践者	実践を通しての研究

☞ 研究を進める際の注意点

- ・ ラポールの形成
  - ・ スーパーヴィジョン
- } が必要不可欠

**実践の記録と分析記述**

- ・ 一次記録...ビデオ、オーディオテープ、ノートなど  
これをもとに二次的な記録や記述

### 言語による記述

♪ 何を対象としてどのように分節化して記述するのか 対象との距離の置き方が問題に

- ・ 心理学研究...客観性を重視 観察者の個別性・各私性を排除
- ・ 実践研究 ...エピソードとしての生き生きとした状況を記述

◎ 相手の感情に入り込んだ、間主観的に把握される部分を記録できる

◎ 恣意的解釈に陥る危険性をはらむ

一次記録資料との照らし合わせ、「メタ観察記録」の必要性

### アクションリサーチ

実際の場合・実践で起こった問題を分析して探求し、そこから次の実践を意図的に計画実施することにより問題への解決・対処をはかりその解決過程をも含めて評価

問いのあり方 「私はここで何ができるのか？」



「私」を研究の出発点の中心に据え、個別具体的な状況における実践改善のための行為についての問いをたて、事例研究を行う——— 時系列的变化、価値志向的研究

### アクションリサーチの過程

問題の共有と定義

具体的な実践の計画

実践の実施

実践の過程と結果の分析

実践の評価と次への課題の明確化

研究知見の導出と公開

♪ 有効性(workability)や確実性(credibility)が重視される

他の視点を取り入れ、得られた知見の制約条件を特定・妥当化していくことが必要

### アクションリサーチの実例と方法

(1) 授業研究の実例

(2) 教室談話研究の例

いずれも教師の実践への見方の変化が考察に挙げられている

記録ビデオの再検討や、生徒の変化を教師が事実として認識することによって生じた

実践研究においては、教師の成長や実践の改善と同時に、実践に参加している生徒それぞれの発達を促すことが最優先